芸豪烈伝その6

玉川勝太郎（たまがわ・かつたろう）

帝王・勝太郎の深い悩み

写真・森　幸一　文・おさだ衛

今、激しい世代交代の波にさらされている浪曲界。その厳しい現状の中でどのように後進を育成し、浪曲の普及拡大をはかるのか。実行力のある玉川勝太郎が日本浪曲協会会長となって今年で二年目。行動する会長の手腕に多くの期待が集まっている。

たまがわ・かつたろう　本名は石渡栄太郎。東京は日本橋うまれ。日本浪曲協会会長。61歳。趣味は鉄砲、ゴルフ、ジャズ鑑賞。信条は、だまされても人をだますな。150センチと小柄だが芸の大きさは浪曲界随一。写真は根津の玉林寺、正岡容の石碑の前で。句は「おもひ皆叶う春の灯点りけり」

不良でなかった男はまともな大人になれない。

玉川勝太郎は、川崎市近くの「更生機関」である「新日本学園」に中学生の一時期「世話」になっていた。早い話が勝太郎は不良だったのである。学校ぎらいのうえ、家の物を内緒で処分して遊興費に当てていたのが親にバレて、少年院に入れられた（そこには、熱血マンガ『巨人の星』の原作者・梶原一騎も不良少年としていたが、これは余談）。

浪曲好きの勝太郎少年は「新日本学園」に慰問に来た、わかの浦孤舟に見いだされて浪曲界に身を投じることになる。

不良とは快楽主義者だ。古くてくだらない習慣や規則や法律によって、がんじがらめに縛られない自由な精神の持ち主だ。楽しいこと、したいことが「自分自身」で判断でき、自分の頭でものが考えられるのだ。アウトローだけに疎外された悲しみや苦しみが理解できる。

「そうだね、不良っ子の方が思いやりはあるね。ものの理屈もわかるしね。

オレは、それと生意気だったね。浪曲界に入ってまもなくだから昭和23年ころかな。東家浦太郎を聞いたんだ。オレの真似をしてるんじゃないかと思ったね」

大きな転機は孤舟師から先代の玉川勝太郎門下に入ったことだ。

「先代からは、いろいろなことを教えられました」

その教えの一部を紹介すると、
①兵隊（座員）には飯を食わせろ
②巡業先では長風呂はやめて、座員に目配りしろ
③寿司は三食の他だ。二つ三つつまんだら、ぐずぐず寿司屋に長居をするな
④ウナギ屋は急がせるな。注文してすぐできるウナギはつくりおきだ
⑤タダ酒のときは、すぐに帰れ
⑥『オール読物』や『小説新潮』ぐらいは目を通しておけよ

などの帝王学だ。帝王学とは人の気を、いつのまにか集めて徳によって人を従わせる世間知の豪華版だ。

「いや、オレはハク学だけど薄学なの。博学じゃなくて」

勝太郎の舞台は繊細にして豪快だ。

二世を誓いあう愛妻・尚子（ひさこ）夫人は先代・勝太郎の愛娘。相思相愛の結婚生活は３８年。真ん中は愛犬・リー。「僕は釣りも好きだけど、女房が一番の釣果だね。ははは」。

端正で低俗さを排している。現代性があり近代的知性に満ちている。

この取材で会った勝太郎はこちらの予想を上回る人物だった。

「肝臓がわるいんですよ。若いころ道楽したからね」とさわやかに笑う開放性と稚気がある。

豊かな人生観、広い視野、健康的な価値観。性根が据わっていて、清潔感にあふれ男の色気がある。政治、経済、流行、森羅万象に一家言あって、全方位に気配りもできる「人生劇場」の名人なのだ。

「そういえば、先代はリンカーン大統領が好きで、四十を過ぎたら自分の顔に責任を持て、が口癖でした」

四十を過ぎた現・勝太郎はいまや日本浪曲協会会長。名実ともに浪曲界の「顔」、大看板だ。

「年中、浪曲のことを考えてるんですよ。義理や人情をストレートに表現しても若い人には、もう受けいれられない時代なんです。義理や人情を前面に出すのはカッコウが悪いと思ってるんだね」

会長として課題は多い。後進の育成、曲師養成の場の拡大、浪曲の普及と宣伝、観客層の掘り起こし、など限りがない。

浪曲界にいま君臨する帝王・勝太郎の悩みは深い。

「二代・浦太郎、福太郎、孝子と私の間の年齢層に、もうひとかたまりの浪曲師がいないのが痛い」

「演者は、職人的になりすぎると、大局的な見方ができなくなるのだが……」

「お客さんにも、新しい演題、演出に反発する方がいる。意識を変えてもらわないと」

しかし着実に改革は進むはずだ。いま浪曲界はすこしでも新しい良いことをせねばならない。

手あかの付いたやり方や発想、旧来の経験則にすがる時代は過ぎた。切り札・勝太郎の手腕に注目したい。

勝太郎が一冊の本としたら、我々はまだ、その物語の三分の一も読んでいないはずだ。「不良」勝太郎自身のみならず、観客にとっても「お楽しみはこれから」なのだ。

「賞を取る芸でなくお客を呼ぶ芸をしたい。大臣から土方まで幅広い層に支持される舞台がやりたい。拍手がなくても心に残る演題をね」

浪曲… これほどすばらしい芸は他にはないと思います。
浪曲家の皆さん…頑張って下さい。
多くのファンを楽しませて下さい。

6/52

葛飾区・坂本豊吉